

令和5年度自己評価結果公表シート

玉川学園幼稚園

1. 本園の教育目標

I. 子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

II. よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

2. 今年度の重点目標

I 受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす

II 自然を題材にした表現の保育の充実を図る

III 週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する

3. 重点目標の取組状況

項目	取組状況と評価
受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす	<p>① 取組状況</p> <p>5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に変更されたことにより、日常の保育や節目の行事の運営に係る制限をほぼ無くした。このことでクラス運営がやり易くなり、子どもの成長にとっては望ましい環境になったと言える。園外保育などの幅広い活動を積極的に行うとともに、行事ではその時々の子どもの育ちを多くの保護者に理解していただけるように努めた。</p> <p>② 保護者アンケートの結果</p> <p>年度末の無記名保護者アンケート（回収率68%）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（72%）」、「良かった（28%）」となり、②子どもの成長が「大変実感できる（67%）」、「実感できる（33%）」と回答いただいているが、対前年度比では各々の項目の「大変良かった」と「大変実感できる」が約4ポイント上昇しており、このことはコロナによる制限から解かれたことによる効果と考えられる。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果</p> <p>自己評価では、ほとんどの教員がクラスの子どもの成長に満足感を得ており、1年を通した子どもの育ちを実感していると言える。</p>

<p>自然を題材にした表現の保育の充実を図る</p>	<p>① 取組状況 本園では、その教育目標を達成するために「自然を題材にした表現の保育」を教育方針として実践している。年間を通して身近な自然や生き物に親しみ、見たこと感じたことを表現することで、子ども一人一人の自己形成を促すとともにクラスの子ども同士の相互理解につなげることを心掛けた。毎月の園内研究会では、各々のクラスの保育を見合うことで教員の保育力向上に努めた。また、他園の公開保育や各種の研修会に参加して研鑽した。</p> <p>② 保護者アンケートの結果 本園の教育内容については「満足（73%）」、「概ね満足（22%）」と回答いただいているが、これは昨年度より向上している。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果 表現の保育にはマニュアルがなく、教員一人一人がクラスの実態を見ながら工夫をする必要であるが、それぞれの教員において保育は、試行錯誤しつつも保育の充実が図れたとの自己評価になった。</p>
<p>週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する</p>	<p>① 取組状況 保育計画を立案して保育を進めることは保育現場において当然のことであるので、今年度も保育内容の充実のために幼稚園全体で取り組んだ。大切なことはその後の評価と改善であるので、PDCA サイクルとして機能するように、保育計画とその反省を毎週持続するようにした。</p> <p>② 教員の自己評価の結果 概ね有効に活用できたとの評価である。日々の保育とその反省をもとに保育計画を立案し、保育の改善に意識的に取り組んでいる。</p>

4. 学校関係者の評価

玉川学園幼稚園の運営は信頼がおける。保護者からも感謝されていると感じる。今年度は新型コロナウイルス感染症による様々な制限がほぼなくなり、保育内容や行事運営がコロナ前の姿に戻ったのはよかった。特に行事運営は、多人数で大規模であるにも関わらずスムーズで安心できるものであった。子どもたちの成長と教員の熱心な姿勢を実感できた。改善点としては、給食内容の充実を希望する声が多い。外部搬入のため難しいところはあるが、検討を願いたい。

5. 財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。